

今週（4月4日から4月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間後半に入り、調達に目途が付き始めた先からレートを引き下げる動きや調達を控える動きが僅かに見られたものの、大勢に影響はなく概ね横ばいでの推移となった。出会いレートも先週比でほぼ横ばいで地銀・証券業態の出合いは▲0.01～▲0.001%、都銀・信託業態の出合いは▲0.015～▲0.010%であった。3日積みとなる週末の8日も、▲0.005%を中心に出会いが見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.005%前後で推移した。

ターム物の出合いは、1W～1M程度の期間で▲0.005～▲0.001%のレンジで出会いが見られた。日銀当座預金残高は550兆円台後半から560兆円台前半で推移した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、オファーサイドの資金調達ニーズが徐々に減退してゆき、徐々にレートが低下する展開となった。週初4日こそ先週の地合いを引き継ぎ▲0.090～▲0.085%出合いとなったものの、輪番オペの増額や指値オペが意識されてか、徐々に売り物が少なくなり、レートが低下する展開となった。週半ばにかけて▲0.10%を下回り、週末にかけては▲0.10%を大きく下回った。

SC個別銘柄では、5年140～150、10年350～366、20年170～179、30年60～74、40年14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、良好な需給環境に支えられ、全ゾーン堅調な展開となった。

5日に実施された短国買入オペは、前回から1兆円減額の1兆円でオファーされ、無難な結果となった。

7日に実施された6M物の入札は、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットではショートカバの動きも見られ、堅調に推移した。

8日に実施された3M物の入札は、強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、期明けの調達再開で不動産、卸売、石油業態等から大型発行が行われた結果、発行超のマーケットとなった。3月末時点の市場発行残高は19兆7,858億円と前年同月末と同様に20兆円割れとなったが、4月に入ってから徐々に残高は膨らみ、今週は週を通して21兆円台前半～22兆円台前半で推移した。発行レートは、新型コロナ金融支援オペの担保確保を目的とした積極的な応札が後退し、先週に引き続き、浅いマイナスから0%と狭いレンジで推移した。

8日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は平均落札レート▲0.004%、按分レート▲0.008%と前回（平均▲0.010%・按分▲0.013%）比で平均・按分ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/4（月）	27,736.47	0.210	122.43	△ 0.004	△ 0.089	5,587,600
4/5（火）	27,787.98	0.210	122.55	△ 0.005	△ 0.106	5,604,400
4/6（水）	27,350.30	0.235	124.00	△ 0.005	△ 0.110	5,590,100
4/7（木）	26,888.57	0.230	123.64	△ 0.006	△ 0.110	5,595,100
4/8（金）	26,985.80	0.225	124.00	△ 0.006	△ 0.116	5,588,500

来週（4月11日から4月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/11 (月)					
4/12 (火)	3月の企業物価指数(日銀 8:50)	5Y 25,000億円 4/13発行	交付税借入 13,000億円 4/22借入		3月の米財政収支 3月の米消費者物価指数
4/13 (水)	信託大会において黒田総裁講演 2月の機械受注統計(内閣府 8:50) 3月のマネーストック(日銀 8:50)				3月の米生産者物価指数 3月の英消費者物価指数
4/14 (木)		20Y 12,000億円 4/15発行			ECB定例理事会(金融政策発表) 3月の米小売売上高 2月の米企業在庫 4月のミシガン大消費者信頼感指数速報
4/15 (金)		TB3M 59,000億円 4/18発行			EURO、London祝日(Good Friday) 3月の米鉱工業生産・設備稼働率

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/11 (月)	800	▲ 7,800	▲ 7,000	国債買入 国債補充	1,600	14,800	16,400	9,400	TB3M発行▲59000償還50000 TB6M発行▲34000償還34500
4/12 (火)	1,000	6,000	7,000				0	7,000	
4/13 (水)	0	▲ 32,000	▲ 32,000	CP買入 全店共通	▲ 5,100	4,000	▲ 1,100	▲ 33,100	源泉税揚げ 5Y発行▲25000
4/14 (木)	▲ 1,000	7,000	6,000				0	6,000	
4/15 (金)	▲ 1,000	61,000	60,000				0	60,000	年金定時払い 20Y発行▲12000 交付税借入▲13000期日11000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3400 個人向け3Y・5Y・10Y償還1200
週間合計	▲ 200	34,200	34,000	—	▲ 3,500	18,800	15,300	49,300	

4/11は日銀予想、4/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、無担保コールO/N物加重平均レートは、地域金融強化のための特別当座預金制度の付利対象額が4月15日まで経過措置が適用されていることから、▲0.005%前後での推移が見込まれる。調達を絞る動きが見られれば、レートが低下する可能性もある。11日に発表される4月積み期間に適用される基準比率は、各種オペの金額次第ではあるが、10.0~11.0%（3月は6.0%）程度を予想する。レポ市場は徐々にレート低下が進む中、来週は積み期が切り替わる週となるため、参加者の資金需給も読みづらい状況となっている。先行きは不透明であるものの、レート推移はボラティルな展開が予想される。短国市場は、15日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、レポレートが低下していることや物不足感もあり、12日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、15日を挟む発行集中日が予定されており、発行レートの動向が注目される。

主要なイベントは、海外では12日に3月の米消費者物価指数、13日に3月の英消費者物価指数、14日にECB定例理事会が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。